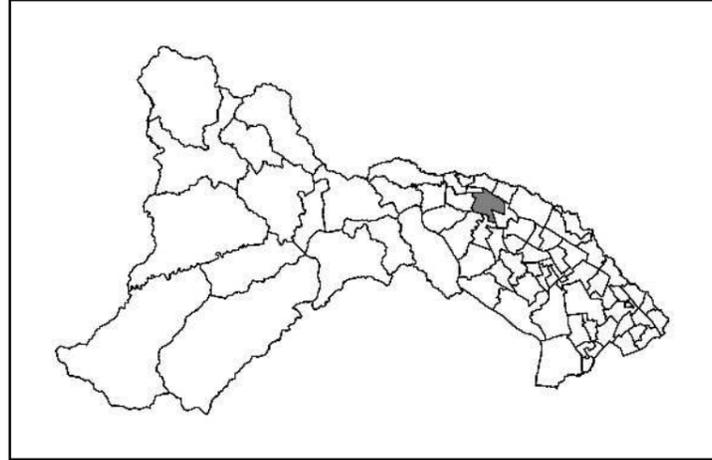


地区を構成する町丁

【緑区】大山町、西橋本1丁目～3丁目、橋本1丁目・2丁目、橋本台1丁目～3丁目、【中央区】下九沢

位置図



地区自治会連合会名(自治会名)

横山(自治会法人下九沢中の原), 橋本(西橋本あじさい, 自治会法人橋本上町, 橋本睦町, 自治会法人西橋本, 法人橋本ライフタウン, 橋本一丁目, 橋本二丁目, 峡之原), 大沢(九沢)

地区概況

台地(上段)にあり、全体にほぼ平坦である。地区の北端をJR横浜線が東西に通り、そのほぼ中央に橋本駅がある。また、中央をやや斜めに国道16号が縦断する。橋本駅周辺および国道16号沿いは主に商業施設、業務施設が並ぶ。西部は主に住宅地、東部は主に工業用地であるが、南部は工業施設、商業施設、業務施設等が混在する。

建物数・人口

区分	建物 (棟数)		人口 (人)	
	棟数	比率	人口	比率
木造(昭和55年以前)	435	14.3%	1,043	6.1%
木造(昭和56年以降)	1,572	51.2%	13,746	80.1%
非木造(昭和55年以前)	236	7.6%	2,318	13.7%
非木造(昭和56年以降)	850	27.3%	17,107	100.0%
合計	3,093	100.0%	17,107	100.0%

所見

・橋本駅およびその周辺施設では、通勤時等に不特定多数の人が多い。
・富士山の大規模噴火時には2～30cmの降灰が予測されており、その場合、道路・鉄道の通行不能をはじめ、停電や取水停止など重大な被害を受ける。

防災関連施設

市役所、まちづくりセンター、出張所等の主な公共施設	アートラボはしもと
警察署	橋本五差路交番
消防署	
消防団詰所	
病院等	相模原協同病院, 塚田医院, 橋本みなみ腎クリニック
主な災害時要援護者施設	デイサービスセンター けやきの里, 介護付有料老人ホーム イリーゼはしもと, (仮称) ネクスコート橋本
幼稚園、保育園	橋本りんご保育園, 西橋本みたけ保育園
学校、大学	旭中学校, 橋本小学校, 県立相原高等学校
避難所	旭中学校, 橋本小学校
洪水時避難所兼用	
洪水時避難所	
広域避難場所	県立相原高等学校
防災備蓄倉庫	県立相原高等学校, 橋本小学校, 旭中学校
広域避難場所対応	
臨時ヘリポート	

地震被害予測結果

	東部直下地震		西部直下地震		大正関東タイプ地震	
	被害量	比率	被害量	比率	被害量	比率
建物全壊	104 棟	3.4 %	97 棟	3.1 %	8 棟	0.3 %
建物焼失	12 棟	0.4 %	4 棟	0.1 %	0 棟	0.0 %
死者	6 人	0.0 %	5 人	0.0 %	0 人	0.0 %
閉込者	48 人	0.3 %	44 人	0.3 %	5 人	0.0 %
重傷者	11 人	0.1 %	10 人	0.1 %	1 人	0.0 %
軽傷者	69 人	0.4 %	68 人	0.4 %	18 人	0.1 %
避難所避難者(当日)	377 人	2.2 %	335 人	2.0 %	51 人	0.3 %
避難所避難者(1週間後)	1,321 人	7.7 %	1,265 人	7.4 %	505 人	3.0 %

災害危険度評価

危険度評価項目	危険度が高い
水害	■■■■
土砂災害	■■■■
地震による地盤災害	■■■■
地震による建物被害、火災	■■■■

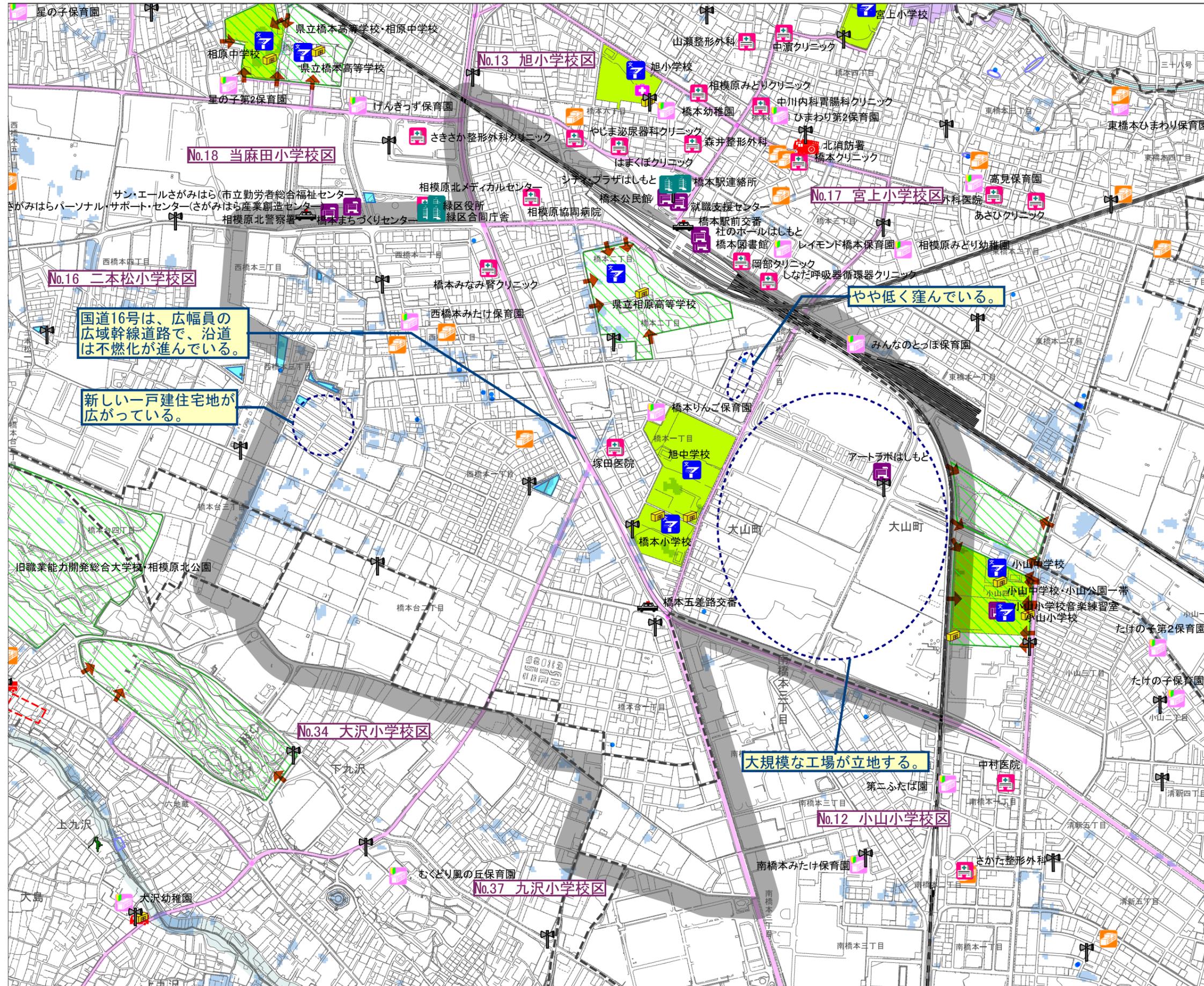
近年の主な災害履歴

平成 2年 8月 8日 床下浸水2戸、床上浸水5戸
平成12年 9月12日 床下浸水1戸
平成20年 8月28日 床下浸水1戸



1:10000





凡 例

防災関連施設等

	市役所、まちづくりセンター等
	公民館、主な公共施設等
	警察署、交番、駐在所
	消防署
	消防団詰所
	病院等
	主な災害時要援護者施設
	幼稚園、保育園
	学校、大学
	避難所・洪水時避難所
	広域避難場所
	広域避難場所への車両進入可能箇所
	救護所
	防災備蓄倉庫
	ひばり放送塔
	雨水調整池
	臨時ヘリポート
	災害時協力井戸
	緊急輸送路
	小学校区境界
	地区自治会連合会境界

地形分類

	山地・丘陵地
	低地
	台地
	台地上の浅い谷
	段丘崖
	山麓堆積地形・扇状地
	人工地形

災害履歴

	浸水があったところ
	土砂災害があったところ

災害危険箇所等

	重要水防区域
	浸水想定区域(河川氾濫)
	浸水想定区域(内水)
	浸水被害警戒地域
	土石流危険渓流
	土石流危険区域
	急傾斜地崩壊危険箇所
	地すべり危険箇所

書き込み欄

みなさんが知っている防災の情報を記入しましょう(例: 浸水しやすいところ、防火水槽の位置など)

旧職業能力開発総合大学校は平成28年11月30日に指定の解除
相模原北公園は広域避難場所として継続



1:10000



平成26年度作成